

特集 リハビリテーションにおける家族ケア

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく申し上げます。
さて、今回のテーマは「家族ケア」です。リハビリテーションが必要な状況では、ご本人だけではなくご家族も新たな生活スタイルの構築が求められます。このようなリハビリテーションの場において、私たちができる家族へのケアについて、一緒に考えていきましょう。

「家族」の捉え方と看護実践

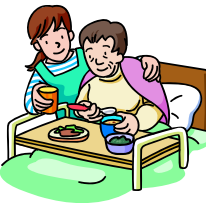


病棟では、ご家族にむけて介護方法や療育の方法についてお伝えしていきます。その時、私達が「ご家族をどのように捉えているか」によって、伝える内容は同じであっても、ご家族に伝わる内容は大きく異なります。皆さんの家族の捉え方と日々の実践はどちらですか？

家族を「患者の回復を支える資源」と捉える考え方 (渡辺 2005)

伝わる内容

ご家族の状況が整っている場合は、伝えた具体的な内容が伝わります。しかし、準備が整っていない場合、「負担感」が伝わり、準備ができなくなる可能性があります。



家族を「患者の病気によって悩み苦しむ援助が必要な対象」と捉える考え方 (渡辺 2005)

伝わる内容

家族の状況を思いやる気持ちがまず、伝わります。その結果、ご家族が介護や療育を受け入れる準備が整っていきます。



リハビリテーションにおける家族ケアとは

「家族ケア」とは、家族の病気や障害という体験により一時的に失った、あるいは、一時的に弱くなったご家族本来の力を取り戻すお手伝いをすることです。ですから、患者・家族の24時間の生活に最も深く関わっている看護師が、ご家族を「患者の病気によって悩み苦しむ援助が必要な対象」と捉え、多職種の力を借りながら、最も近い存在として家族をケアし本来の力を取り戻すお手伝いをしていくこと、これが私たちの役割です。

“家族ケア”
ご家族が本来の力を取り戻すお手伝い

“家族のアセスメント”
家族の発達段階、受容段階
準備状況・脆弱性・家族関係
問題解決力etc

“家族指導”
具体的なケアの方法を
伝えること



<ゴール>
健康的な日々の
生活の再構築

<家族ケアによる期待される結果>

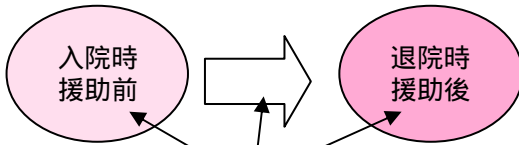
- ・意思決定ができる
- ・主体的な問題解決ができる
- ・家族内で役割分担ができる
- ・情緒的な結びつきが強まる
- ・家族間のコミュニケーションが円滑になる
- ・他者からのサポートを受けられる

専門看護師（CNS）の役割（その15）：何が起きたのか調べよう型/記述型



前は、「事例研究」を概説しました。
今回は、何が起きたのか調べよう型・記述型を詳しくお伝えしますね。

何が起きたのか調べよう型/記述型



事実を再構成し、現象を見いだす

<分析の方法>

「事実」を取り出し言葉で表現していく
同じ意味内容のものがあればまとめ、内容を
示す端的な言葉に置き換え、分類する
カテゴリー化/抽象化/概念化
分析の軸を決めて整理する
時間軸/主要な概念/モデル/理論
影響要因、原因や結果を考え、「現象」を取り出す

<ポイント>

- ・「事実」 実際に起こった事柄。どのような事実があったかは、診療録や看護記録に「記録」されているはずですね。普段からの記録がとっても重要になりますよ。
- ・どの「事実」を取り出すかによって、研究の意義が決まります。
- ・事実は意味内容によって分類できますね。例：ADL、障害の捉え方、バイタルサイン・・・
- ・「事実の意味内容」は、どのような軸で事実を紐解いていくかで決まります。
- ・分析の軸は看護の視点であることが必要です。また、軸がぶれないで首尾一貫していることが重要です。

市原の活動予定 <http://sites.google.com/site/mahoichihara/home/carender>

Contenance (失禁) - ③ グリセリン浣腸の正しい使用方法 (使用上の注意)

薬の作用と効果

グリセリン浣腸剤で、直腸壁からの水分吸収に伴う刺激で、蠕動を促進し、便を軟化・膨潤させて糞便を排泄させます。

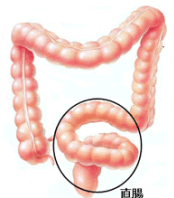


・グリセリン浣腸は人肌程度に温めてから使用する

直腸温度(37,5 ~ 38,0)より低くても高くても直腸へ刺激は伝わるが、温度が低すぎると使用後に寒気がしたり、末梢血管が収縮して**血圧が上昇**することがあるので、特に冬場は使用温度に注意する。温度が高すぎても、**直腸粘膜を傷つけて**しまうことがある。

・立位でグリセリン浣腸を使用しないこと

立った状態で浣腸を使用すると、チューブの先端が会陰曲(直腸膨大部手前の急カーブした部分)に当たり、粘膜を傷つけてしまったり、会陰曲の腸壁を突き破ってしまう危険性がある。立位では腹圧がかかりやすいうえに筋肉が緊張しているためチューブが挿入しにくく、事故につながりやすい。



・浣腸のチューブは7cm以上挿入しないこと

成人:5~6cm、小児:3~4cm が目安であるが、直腸の長さや形は個人差があるので、目安以下であっても挿入時チューブに抵抗を感じたらそれ以上を挿入しないで少し引き戻す。

有害事象: グリセリン浣腸による溶血

グリセリン浣腸処置時に誤って直腸を損傷し溶血をきたしたという報告あり。
溶血により尿細管が壊死し、**腎障害**を起こすリスクが高くなる。